

今回のテーマ

# 日本初の 科学切手



No.097

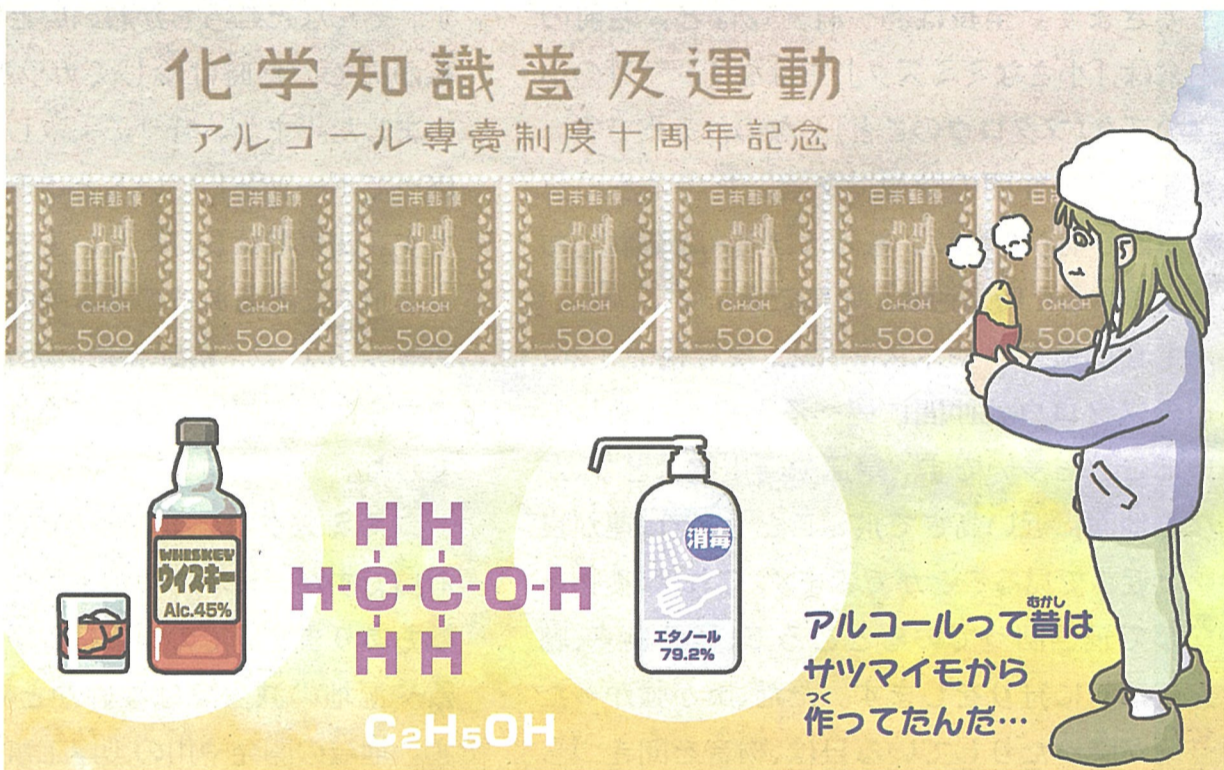
デザインに世界で初めて化学式を取り入れたのは、日本の「アルコール専売制度10周年記念切手」でした。

3月9日は「記念切手記念日」です。切手のデザインには、さまざまなメッセージが込められています。「科学」にまつわるデザインもたくさんあります。日本初の科学切手ってどんなデザインだったんでしょうか？

それは1948年に発行された「アルコール専売制度10周年記念切手」です。この「アルコール」はエチルアルコール(別名エタノール)のことです。お酒に入っている成分で、酔っぱらう原因です。コロナ以降よく使われている消毒用アルコールにも入っています。

### ◇「アルコール」国が管理

当時の日本では、純度90%以上のエチルアルコールは、品質と供給の安定のために国が製造・管理・流通させていました。これが「専売制度」です。現在、専売制度は無くなって、許可制の民間事業になっています。かつてのアルコールづくりでは、サツマイモを酵母



で発酵させて蒸留塔で取り出していました。この切手のデザインでは、筒にサツマイモの葉っぱ、中央に蒸留塔が描かれています。なんと、この蒸留塔(38年操業開始)はまだ一部現存していて、「化学遺産」に指定されています。さすがにもう動いてはいませんが、注目なのは蒸留塔の下にあるC<sub>2</sub>H<sub>5</sub>OHというエチルアルコ

ールの化学式です。C<sub>2</sub>H<sub>5</sub>OHは、エチルアルコールが化学的には、炭素(C)、水素(H)、酸素(O)で構成されていることを表しているんです。

### ◇化学知識普及を狙い

実はこの切手、世界で初めて化学式をデザインに取り入れためずらしい切手だったんです。切手シートの外側の赤白には

「化学知識普及運動」というメッセージが入っていて、化学を広めようという当時の日本の意気込みも感じられる、すてきな切手になっています。

受け取る人が喜びそうなデザインの切手を選ぶというのも、手紙を出す時の楽しみのひとつです。最近では国内で科学切手がめったに発行されないのが、ちょっと残念です。

### 今日の先生



安部 浩司さん

「小学校の時に見たフェノールフタレインの呈色反応に感動し化学の道に迷い込む。切手収集は小4から」

産業技術総合研究所(産総研)電子光基礎技術研究部門。専門は切手と同じく二次元の表面科学。出身小学校は熊本県熊本市立慶徳小。

### さんそうけんって?

日本で最大級の公的研究機関なんだ。茨城県つくば市など、全国12か所の研究拠点があって、日本の産業や社会に役立つ技術について研究を進めているよ。

キッズむけウェブページはこちら → (さんそうけんサイエンスタウン)

